

## 平成28年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	本の未来基金	職名	事務局	助成金額	500,000 円
氏名	香月 啓佑		katsuki@miau.jp		
研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）					
インターネット図書館「青空文庫」の次世代運用管理サービスの設計・構築					
助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>本事業では青空文庫のボランティア作業を支えるシステムが稼働する入力・校正管理サーバの保護、そして世代を超えて維持運用できる環境づくりを行うことを主眼とし、入力・校正管理サーバの移転、作業内容の文書化、そして青空文庫の未来を担うボランティアの募集を目的としたハッカソンなどを行うことを計画した。</p> <p><b>■サーバ移転に関して</b>  青空文庫で公開される電子本を管理する入力・校正管理サーバについて、2017年3月30日の深夜に移転が完了し、環境も物理サーバからクラウドサーバへと移行した。</p> <p>クラウドサーバへの移行を伝える青空文庫のアナウンス  <a href="http://www.aozora.gr.jp/soramoyou/soramoyouindex.html#000489">http://www.aozora.gr.jp/soramoyou/soramoyouindex.html#000489</a></p> <p>移行作業は株式会社達人出版会の高橋征義氏に業務を委託し、サーバ移転にかかる調査、実験、そして実際の移転作業が行われた。また株式会社ブログの宇谷有史氏がプロボノとしてアシスタント業務に関わった。本サーバ移転によって青空文庫の入力・校正管理サーバの運用がより安定したものとなった。また本文書作成時点でサーバ移転そのものによる不具合は存在しない。今後は冗長化などの作業を検討し、より運用を強固なものとするを通して、自由なテキストを広げる青空文庫に活動を支援したい。</p> <p><b>■ハッカソン運営に関して</b>  2016年7月30日（土）～31日（日）の二日間にかけて「aozorahack hackathon #1」を開催した。開催会場にはサイボウズ株式会社とLINE Fukuoka株式会社の支援を得た。ハッカソンではプログラミング言語「Ruby」開発者のまつもとゆきひろ氏に「ソフトウェアと自由」をテーマに基調講演をいただき、青空文庫が支える自由なテキストの重要性について改めて考える機会を得た。基調講演のあとは参加者ごとにチームを組み、2日間で集中して青空文庫をより便利にする技術の開発が行われた。開発されたツールについては「助成金を使用した成果に関する発表」欄に記載したスライドにて紹介している。集まったアイデアはすべて今後の青空文庫の展開に資するものであった。今後はこのようなツールをどのように提供していくかを考え、提供していくことが、本の未来基金およびaozorahackの活動のひとつの主眼となる。</p> <p>2017年は青空文庫の創設から20周年のメモリアルイヤーとなる。20周年記念のシンポジウムにおいては、財団せせらぎからの助成金によってサーバ移転が行われたことを報告する。また本助成金を活用して構築できたインフラ及び人的交流を活かして、20周年にふさわしい事業を続けたいと考える。</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合はURLを記載すること。）					
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)		
高橋 征義	Aozorahack Hackathon #1 ( <a href="https://www.slideshare.net/takahashim/aozorahack20161106">https://www.slideshare.net/takahashim/aozorahack20161106</a> )	オープンソースカンファレンス 2016 Tokyo/Fall	2016年11月6日		